

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-284758

(43)公開日 平成6年(1994)10月7日

(51)Int.Cl.⁵ 識別記号 庁内整理番号 F I 技術表示箇所
H 0 2 N 11/00 Z 8525-5H

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全4頁)

(21)出願番号 特願平5-71635

(22)出願日 平成5年(1993)3月30日

特許法第30条第1項適用申請有り 平成4年9月30日、
宇宙研究所発行の「THE PRINCIPLE
S OF ULTRA RELATIVITY」に発表

(71)出願人 593062201

株式会社エムイーアイジャパン
東京都新宿区内藤町1番地

(72)発明者 清家 新一

愛媛県宇和島市大宮町1番の2

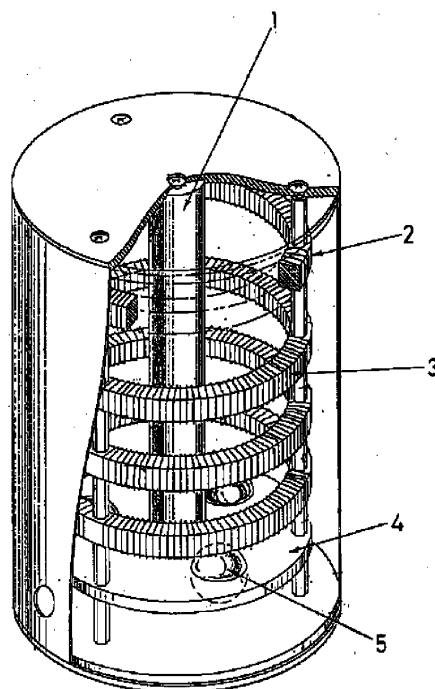
(74)代理人 弁理士 小川 順三 (外1名)

(54)【発明の名称】 単極磁石およびその磁石を用いた発電機

(57)【要約】

【目的】 単極磁石を開発し、もって外的エネルギーを付与することなく、電気エネルギーを得ることができる発電機を提供すること。

【構成】 磁性体を、メビウス巻きコイルにてNSNまたはSNSである準単極に着磁し、これを3分割することにより得られる単極磁石と、その磁石を用いたロットコア、そのロットコアの軸方向に複数個を離隔して設けた、該ロットコアと同極の準単極磁石であるコロイダルコア、このコロイダルコアにメビウス巻き巻かれた該ロットコアと同極の単極磁性体であるコンデンサーコイル、および並列共振回路を作るコンデンサーから主として構成される発電機である。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 磁性体をメビウス巻きコイルにて着磁することにより、NSNまたはSNSで構成される準単極の磁石とし、この磁石を3分割することによりS極部分またはN極部分を切断除去して得られてなるN単極またはS単極からなる単極磁石。

【請求項2】 単極磁子を空間から取り入れるための単極磁石からなる棒状のロットコアと、そのロットコアの軸方向に複数個を隔離して設けた、該ロットコアと同極の準単極磁石であるトロイダルコアと、そのトロイダル

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、単極磁石およびその磁石を用いた発電機に関し、特に、機械的エネルギーを付与することなく、電気エネルギーを得ることができる発電機の技術についての提案である。

【0002】

【従来の技術】一般に、磁性体をソレノイドコイルによって着磁すると、その磁性体は、必ずNSの2極に着磁される。しかも、この着磁された磁性体を2等分に切断しても、必ずNSの2極となる。このように、従来の技術では、単極磁石はもちろん、NSNまたはSNSからなる準単極磁石をも製造することは不可能であった。

【0003】一方、空間には、無尽蔵に磁子が存在するので、これを直接電気エネルギーに変換できれば、太陽電池と同様に熱エネルギーを媒体とせず、しかも、可動部分もなく静かで、クリーンな発電法が可能となる。しかし、磁子を利用した従来技術にかかる発電機では、外力（機械的エネルギー）が必要であり、コイル中の磁石を外力（機械的エネルギー）により振動させることにより、磁子を振動させ、これによりコイルに交流を発生させていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】この発明の目的は、単極磁石を開発し、もって機械的エネルギーを付与することなく、電気エネルギーを得ることができる発電機を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的実現のために鋭意研究を重ねた結果、発明者は、以下の内容を要旨構成とする本発明に想到したのである。すなわち、本発明は、磁性体をメビウス巻きコイルにて着磁することにより、NSNまたはSNSで構成される準単極の磁石とし、この磁石を3分割することによりS極部分またはN極部分を切断除去して得られてなるN単極またはS単極からなる単極磁石であり（第1発明）、また、単極磁子

2

を空間から取り入れるための単極磁石からなる棒状のロットコアと、そのロットコアの軸方向に複数個を隔離して設けた、該ロットコアと同極の準単極磁石であるトロイダルコアと、そのトロイダルコアにメビウス巻きに巻かれた、該ロットコアと同極に着磁された磁性体であるコンデンサーコイルと、そのコイルに発生する電圧から並列共振回路を作るコンデンサーとから主として構成されることを特徴とする発電機である（第2発明）。ここで、本発明でいう「単極」とは、単極ならびに単極に近いものの両方を含むものとする。

【0006】

【作用】第1発明の特徴は、磁性体を、メビウス巻きコイルにて着磁してなる点にあり、これにより、従来不可能であった、いわゆる単極磁石の提供が可能となる。また、第2発明の特徴は、複雑な回転子等を用いることなく、単に、単極磁石からなる棒状のロットコアによって単極磁子を振動させ、トロイダルコアに巻いたメビウス巻きコイルにて、核電気共鳴器と共振回路を作るだけで発電させる点にある。これにより、外部から機械的エネルギーや熱的エネルギーを全く与えることなく、無尽蔵に存在する空間または宇宙エネルギー（ビレンキン粒子やヒッグス粒子など）を電気エネルギーに変換することができるようになる。すなわち、従来の発電機のように回転して発電させる形式のものではなく、コイルとコンデンサーだけで空間から電気エネルギーを取り出すものである。

【0007】ここで、本発明において、メビウス巻きコイルとは、「メビウスの輪」の原理に基づき、コイルを磁性体に巻く際に、毎回、1回ひねってくぐらせて巻いてなるコイルである。

【0008】次に、本発明の発電機を具体例を挙げて詳細に説明する。本発明の発電機は、例えば、図1に示すような構成からなる。図1において、符号1は、単極磁子を空間から取り入れるための単極磁石からなる棒状のロットコアである。この磁石は永久磁石ならいずれを用いることも可能であるが、より高い出力の交流を発生させるには、マンガン系磁石や希土類磁石、とりわけネオジウム系磁石が好適である。符号2は、ロットコア1と同極の準単極磁石からなるトロイダルコアである。この磁石も永久磁石ならいずれを用いることも可能であるが、より高い出力の交流を発生させるには、マンガン系磁石や希土類磁石、とりわけネオジウム系磁石が好適である。なお、ロットコア1の磁極がNの場合は、トロイダルコア2はNSNの準単極磁石からなる。

【0009】符号3は、トロイダルコア2にメビウス巻きに巻かれた、上記ロットコア1と同極に着磁された単極の磁性体であるコンデンサーコイルである。この単極のコイルは、準単極に着磁した磁性体である電線を3分割し、同極同志をはんだ付け等により接続して作製する。符号4は、チタン酸バリウムまたは誘電体セラミッ

クスからなる円盤状のコンデンサーであり、共振（同調）装置としてエネルギーを増大する作用がある。このように円盤状にしている理由は、エネルギー効率を高めるためである。符号5は、コンデンサーの端子であり、純金が望ましいが、通常、金と鉄の合金が用いられる。この端子を3つ具えているのは、3相交流を発生させるためである。

【0010】なお、図1において、他の部分は、必須の構成要素ではないが、エネルギー効率を高めるために、非磁性材料で、かつ誘電体であることが望ましい。例えば、チタンが好適に用いられる。

【0011】このような本発明の発電機から交流が発生する具体的回路を図2に示す。この回路において発生する3相交流のうち1相の波形をオシロスコープで測定した結果を図3に示す。この図に示す結果から明らかなように、周波数 $f = 20 \mu s$ の交流、すなわち約85Hzの交流が発生していることを確認した。なお、他の2相においても、同様の波形が観察された。

【0012】

【実施例】（実施例1）メビウス巻きを左巻きで200回、右巻きで200回、鉄電線に巻き電流を10A流して着磁して、着磁状態を調べた。その結果、両端はN極で中央はS極の磁石、いわゆる準単極磁石が得られることを*

*確認した（図4(a)参照）。次に、この準単極磁石を3分割し、中央部のS極部分を切断除去し、両端のN極をはんだ付けして得られる磁石の磁束密度を測定して、単極磁石となっているかどうかを調べた。その磁束密度の測定結果を図4(b)に示す。この図から明らかなように、準単極磁石を3分割して得られる本発明の磁石は、限りなく単極に近い磁石、いわゆる単極磁石であることを確認した。なお、上記準単極磁石をコンデンサーコイルに用いた場合は発電せず、一方、上記単極磁石をコンデンサーコイルに用いた場合は3.5Vの発電を生じた。

【0013】（実施例2）図1に示すような構成の本発明の発電機において、ロットコアやコロイダルコアに用いる永久磁石として、フェライト系磁石ならびにネオジウム系磁石を用い、他の条件を下記条件に統一して、発生する電流、電圧等を測定することにより、ロットコアやコロイダルコアに用いる永久磁石の磁力の影響について調べた。

記

コンデンサーコイル：鉄線をNSNに着磁したコイル

コンデンサーの材質：チタン酸バリウム

コンデンサー端子の材質：金

【0014】

【表1】

コアの磁石	フェライト系磁石	ネオジウム系磁石
磁力	60 ガウス	6,000 ガウス
磁気容量比	1 (ガウス) ²	10,000 (ガウス) ²
電流	10 mA	100 A
電圧	3.5 V	35 V
出力	0.35 W	3,500 W

【0015】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、限りなく単極に近い磁石、いわゆる単極磁石を容易に提供でき、しかも、外部から機械的エネルギーや熱的エネルギーを全く与えることなく、無尽蔵に存在する空間または宇宙エネルギーを電気エネルギーに変換することができる。これにより、熱エネルギーを媒体とせず、しかも、可動部分もなく静かで、クリーンな発電法が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明にかかる発電機の一実施例を示す図である。

【図2】本発明にかかる発電機の一実施例を示す回路図である。

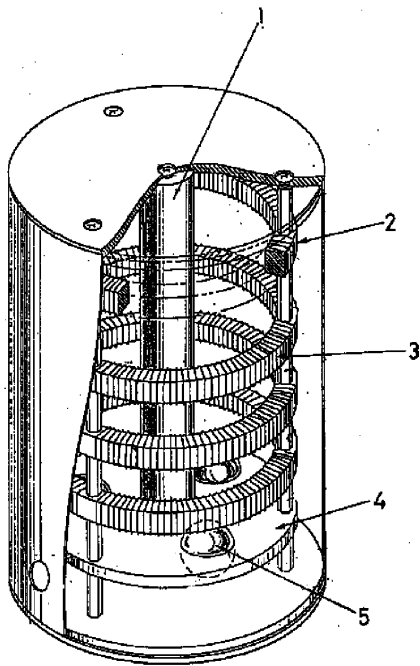
【図3】本発明にかかる発電機の実出力波形の一例を示す図である。

【図4】本発明にかかる(a)準単極磁石および(b)単極磁石の磁束密度の一測定例を示す図である。

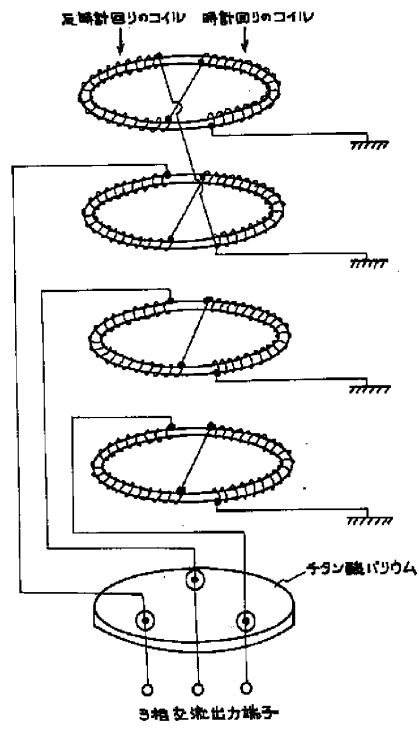
【符号の説明】

- 1 ロットコア
- 2 コロイダルコア
- 3 コンデンサーコイル
- 4 コンデンサー
- 5 コンデンサー端子

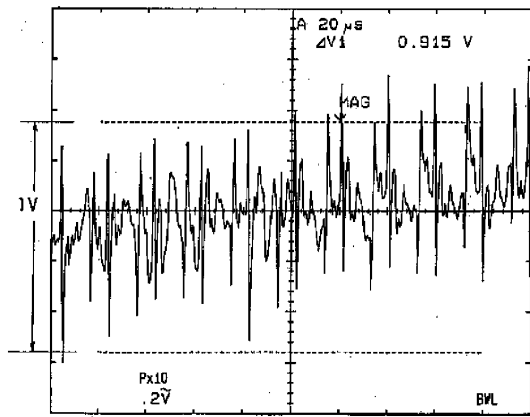
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

